

事業報告

事業名	令和3年度第10回屋久島研究講座	事業体系	環境学習事業
期 日	令和4年2月25日（金）20：00～21：30		
場 所	オンライン（ZOOM利用）		
対象者	すべて	参加者数	197名 （内受講証明書発行9名）
<p>（概 要）</p> <p>1 講師 王 智弘 京都精華大学特別研究員</p> <p>2 演題 「屋久島はひと月に35日雨が降る 作家・林芙美子『浮雲』の世界」</p> <p>3 講演要旨</p> <p style="padding-left: 2em;">林芙美子はどのくらい有名な人だったのか？</p> <p style="padding-left: 2em;">改めて、林芙美子とはどんな作家だったか</p> <p style="padding-left: 2em;">林芙美子は屋久島のどんなところを見たのか？</p> <p style="padding-left: 2em;">屋久島の人たちが語った林芙美子評</p> <p style="padding-left: 2em;">『浮雲』の中で語られる屋久島</p> <p style="padding-left: 2em;">『浮雲』と「屋久島紀行」での雨の表現の違い</p> <p style="padding-left: 2em;">一月に三五日雨が降るの表現は林芙美子独自ではない</p> <p style="padding-left: 2em;">成瀬巳喜男の『浮雲』（映画）について</p> <p style="padding-left: 2em;">小説と映画の違い</p> <p style="padding-left: 2em;">＜雨＞の降り方——他の作品との比較</p> <p style="padding-left: 2em;">小説に出てくる＜狭さ＞と＜自由＞という言葉から分かるもの</p> <p style="padding-left: 2em;">林芙美子の理想郷 自然と人間のたわむれ／植物と土地の関係</p> <p>4 受講者アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林芙美子さんはもともと詩人だったとのこと ・屋久島はやはり、雨、という印象なのだ、という事。 ・1ヶ月に35日雨が降ると言うのが林芙美子の言葉ではなかった。 ・戦後の描写に、当時の屋久島のイメージが非常に正確に描かれていること。 ・浮雲の中で“雨”の表記頻度により作品の強弱が表現されていること ・浮雲における「雨」という言葉の使用頻度にグラフで示したものがとても分かりやすく「なるほど」と唸ってしまいました。 ・映画「浮雲」が評判だったらしいこと。月に35日雨という表現、結構いろいろなところで使われているらしいこと。 <p>※ 屋久島町エコツーリズム推進協議会登録ガイド更新条件の対象となっています。</p> <p>※アーカイブをご覧ください。 オンラインアカデミー屋久島大学HP https://yakudai.jp/</p>			
資料等	なし		